

## 宮崎-バンングラデシュ・モデル (2017.4~2021.9)

「宮崎-バンングラデシュ・モデル」は、地方における自治体、企業、大学、およびバンングラデシュなどのステークホルダー間でお互いの課題解決に向けて協力した**高度外国人 ICT 人材育成導入事業**です。これは、JICA の日本市場向け高度 ICT 人材の育成を目指した技術プロジェクト事業“B-JET”<sup>\*1</sup>と、宮崎大学の短期留学・就職支援プログラム JIP<sup>\*2</sup>の2つのプログラムが連携した内容となっています。

**B-JET** (2017.11~2020.10)：日本への就職を希望する優秀なバンングラデシュ人 ICT 技術者が日本語、ICT スキル、ビジネスマナーを学びました。募集倍率はおおよそ 80 倍と高く、非常に優秀な 265 名の若者が修了しました。修了後、70%の 186 名が日本に就職しています。B-JET において、宮崎大学は企画より関わり、教材開発、JICA 専門家としての日本語教師派遣を行ってきました。

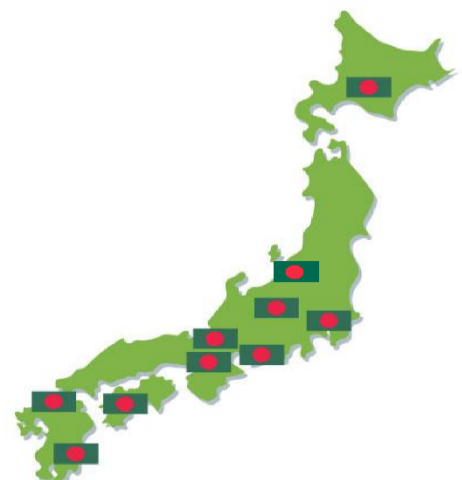
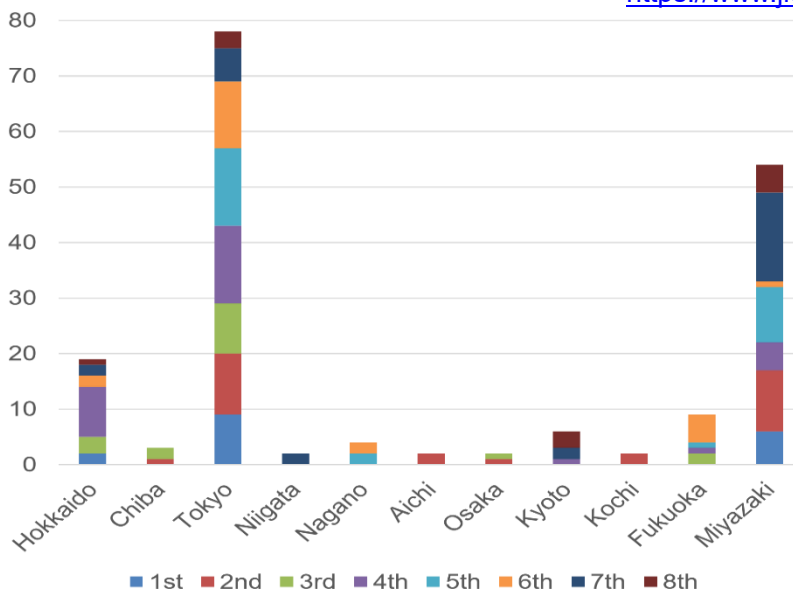
JICA B-JET 特設サイト：<https://www.jica.go.jp/bangladesh/bangland/b-jet.html>

**JIP** (2018.4~2021.9)：宮崎などでの就業を目指す B-JET 修了生が、宮崎大学へ短期留学して日本語教育と企業インターンシップを行うとともに、生活支援・指導を通じて日本での生活・慣習等を学びました。修了後は宮崎などへ就職しています。JIP の企画に際しては、平成 29 年度宮崎市地域貢献学術研究助成により「高度外国人材就業のための日本語・キャリア教育と地域産業人材の国際化に関する研究」の支援を受けています。



出典：JICAトピックス「バンングラデシュに見る ICT 時代の国際協力」

[https://www.jica.go.jp/topics/2019/20190814\\_02.html](https://www.jica.go.jp/topics/2019/20190814_02.html)



出典：JICA資料より